

普及活動情勢報告（平成26年7月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

クレームには毅然と真摯に対応！ 直販所のクレーム対応研修会



鏡村直販店組合では、直販所の機能強化に取り組んでおり、クレーム対応のマニュアル化を課題にしています。そこで、普及所から高知県産業振興アドバイザー制度を利用したクレーム対応研修を提案し、6月26日に開催しました。関係機関の協力を得て、全組合員と店舗職員を対象に呼びかけたところ、48名の参加があり、クレームの区分及び区分ごとの対応や、クレームの組織力強化への活用などについて研修しました。

参加していた店舗職員には、改めて初期対応の重要性が認識されたことから、普及所では、もう一度、役員と店舗職員を対象に、より具体的な場面を想定した研修会を企画していきます。

市場ニーズに対応した有望品目の導入！スナップエンドウ栽培勉強会



普及指導員の説明を聞く参加者

J A高知市長浜支所では、新規有望品目としてスナップエンドウに着目しています。これは加温もほとんど不要で軽量で扱いやすく、市場からの要望も高い品目です。平成25園芸年度に試作を開始し、次年度は栽培者が4名に増えることから、7月1日にJ Aと協力して栽培勉強会を開催しました。

普及所は試作結果や先進地の情報を提供し、病虫害防除指針も配布しました。会では試作をふまえた次作の草勢管理や作型、品種選定などについて熱心に話し合われました。

普及所では、これからも栽培情報を収集、提供しながら、関係機関と連携して新たな産地づくりを支援していきます。

普及推進協議会を開催し、普及所の活動に意見をもらいました！



管内農家組織の代表者や関係機関から、普及所の活動に意見や助言をいただくため、7月3日に普及推進協議会を開催しました。

総合課題【キュウリの産地維持と生産安定】には、「初心者にキュウリという品目は難しいかも、でも産地維持も大事なので取り組みは必要、普及所はきめ細やかな支援をして欲しい」、「指導農業士と研修生のマッチングも大事」、また【地域特性に応じた集落営農の育成】には、「平場は出作も多く組織化が難しい、また組織化しても共倒れしないか心配なので、経営者としての育成が大事」などの意見がでました。

今後も、いただいた意見を参考に、関係機関と連携して課題解決に取り組んでいきます。

全国流通しているスモモの味は？ スモモ品種試食会



高知市五台山周辺は大石早生、ソルダムを中心にしたスモモの出荷が行われていますが、老木が増え、ウィロイド感染も進むなど、今後品種更新に向けた検討も必要となっています。そこで普及所の提案により、7月8日に行われた出荷反省会（生産者11名参加）で、ソルダムと同時期までに収穫できる品種を試食しました。

試食は山梨・島根・福岡産の5品種で、生産者からは「非常においしいものがある」、「同じ品種を植えているが味が違う」、「他産地のものは食べる機会がなかったので、刺激になった」といった感想が聞かれました。

普及所では今後、27年度以降のスモモ産地構造改革計画の策定を支援していきます。

カラスからナシを守れ！ 針木カラスパトロール隊出発



新高ナシの産地である高知市針木地区ではカラスの被害が問題になっていたことから、普及所をはじめ関係機関で鳥獣被害対策協議会を組織し、駆除や追い払い等の取り組みを実施した結果、現在では被害は取り組み前の2割近くにまで減少しています。

対策のなかでも、地区住民の散歩を追い払いの手段として活用しているパトロール隊は、地域全体の結束も高めており、今年で取り組み4年目となりました。7月15日には出発式が行われ、関係機関も含めた32名が巡回コースを練り歩き、カラスの出現ポイントなどを確認しました。

普及所では、今後の課題として残されているハクビシン対策についても支援を続けていきます。

酢玉A出荷の拡大に向けて 土佐山柚子生産組合現地検討会



ユズ現地検討会の様子

7月15日に、土佐山地区でユズの現地検討会が開催され、約20名の生産者が参加しました。普及所は今後の管理や薬剤登録についての情報提供を行い、特に果皮を利用することができる「酢玉A」規格については、実証ほでの防除モデルを示し、ポイントとなる防除の時期や薬剤を紹介しました。

また、3班に分かれ、10ヶ所の園地を巡回し、現地検討会後の役員会では、裏年で少ない果実を歩留まり良く収穫していく必要性や、粗放的な管理をしている園地の状況について意見交換がされました。

普及所では、今後も、毎月生産者に配布する「ユズだより」などを通して、所得安定に向けた誘導を図っていきます。